

号外

第42回全日本少年野球大会
豊田・みよし地区予選

豊田中央クラブ 優勝

完封リレーで3年ぶり2回目

【戦評】0-0で迎えた5回表、岡本(3年、益富)の中越え2塁打で2死2塁とするこ

こで代打に武田(3年、浄水)。「こちらが有利だからと監督に声を掛けてもらって自信をもって打席に立てた」

3回戦でも代打で安打を放った武田は2球目のストリートを強振すると打球は右越えの3塁打で待望の先制点。

6回にも主将の勝上

(3年、高橋)の左越え3塁打と敵方で2-0とすると続く7回にも2死3塁から山口(3年、浄水)にもタイムリーが飛び出し3-10とした。先発した鈴木旺(3年、藤岡)は5回の無死2、3塁のピンチを「変化球の調子が良かったので思い

豊田中央	0	0	0	0	1	1	1		3
豊田南	0	0	0	0	0	0	0		0

【3月23日(日) 毘森公園野球場】



5回を無失点に抑え試合の流れを作った先発の鈴木旺(3年・藤岡)

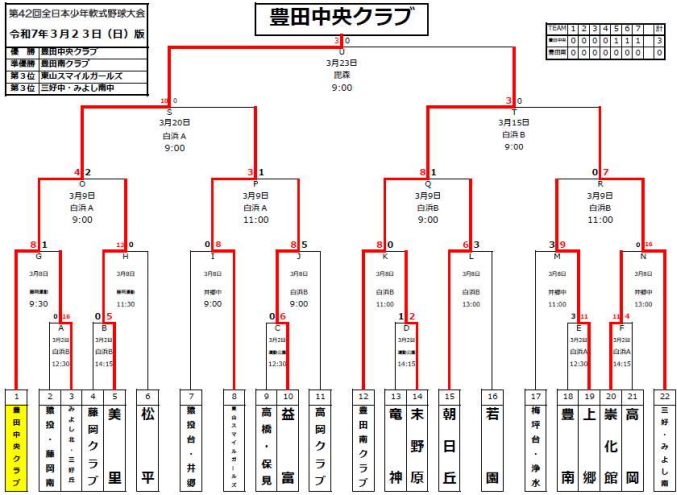
切って攻めた」というスライダーを低めに集め無失点で切り抜ける

と、6回から「最後は自分が締めるつもりで準備していた」とエースナンバーを背負う川上(3年、朝日丘)にバトンタッチ。2イニングをきっちり無失点で締めくくり3年ぶり2回目の優勝をきめた。

優勝した豊田中央クラブは5月4日から口論義運動公園(長久手市)で行われる県大会に出場する。

大会を振り返って

全日本少年大会を迎えるにあたり、過去の反省からチームとしての準備不足を見直し取り組んできた。冬のトレーニングの比重を減らし実戦を意識した練習を行った。今までは1試合程度で大会を迎えていたところを最低でも5試合を組み、実戦を増やし選手たちに経験する機会を作ってきた。大会を振り返って「まずは投手陣の安定が一番の要因。打線



先制タイムリーの武田(3年・浄水)

は秋よりもしっかりと捉える選手が格段に増えた」と川本監督。川上、鈴木旺、山口など安定した投球をした投手陣の成長をたたえた。打線も3回戦の美里戦では7回2アウトまで追い詰められながら4点とって逆転勝ちするなど劣勢に立たされても粘り強く戦えるようになった。準決勝、決勝からは長打も多く出るなど確かな成長をみせた。

県大会に向けて

「今年のチームはキャプテンのキラがよく声をだしてチームをひっぱりまとめてくれている。県大会までにキャプテンを中心にしっかりと練習して準備していきたい」と川上。川本監督は「4期生のチーム目標は県大会初戦突破。選手たちが決めた目標を達成できるようにしてあげたいし選手たちは強い気持ちをもって挑んでもらいたい。そして中央クラブの先輩たちの気持ちも背負って1つでも多く勝っていきたい」と締めくくった。(宇田)